



## 羽越本線脱線転覆事故から19年

2005年12月25日、羽越本線砂越～北余目駅間で発生した特急いなほ号脱線転覆事故から19年となりました。亡くなられた5名のお客さまのご冥福を改めてお祈りいたします。喜勢社長は慰霊式後「安全は、経営のトッププライオリティ。これは、我々鉄道人にとって、不変の使命ともいえるもの。」と報道陣に話しました。

### 技術の進歩以上に深刻化する異常気象。必要なのは人間力。

事故発生以降、防風柵の設置や風速計の増設の他、4年前からは予測精度を上げるためAI(人工知能)の活用を開始し、突風の予測的中率は80%まで向上しているといわれています。

しかし、昨今の異常気象の多発により、運行可否の判断はより難しくなっており、まさに「想定外も想像」し「最も安全と認められるみち」を採るための人間力が求められています。

### 現場力の低下と企業風土の悪化が、鉄道人を押さえつけている！

一方で「新たなジョブローテーション」の実施により、仕事の本質を熟知した社員が減少し、現場の力が落ちています。さらに、要員不足を覆い隠すための労働強化や、コンプライアンス意識の欠如による独善的な企業風土により、多くの社員が心身共に疲弊しています。鉄道人として使命を果たせる風土からは程遠いのが現在のJR東日本と言っても過言ではありません。

### 言葉だけでは、安全をつくりだすことはできない。

鉄道人である私たち社員一人ひとりが安全に対して力を発揮できるための健全な企業風土、想定外を想像するための人間力・現場力の向上がなければ、人命第一の安全意識を後世に伝えることはできません。

私たちは鉄道会社としてあるべき姿の再構築に向けて、これからも運動をつくりだしていきます。

鉄道人の使命を果たせる企業を再構築しよう！